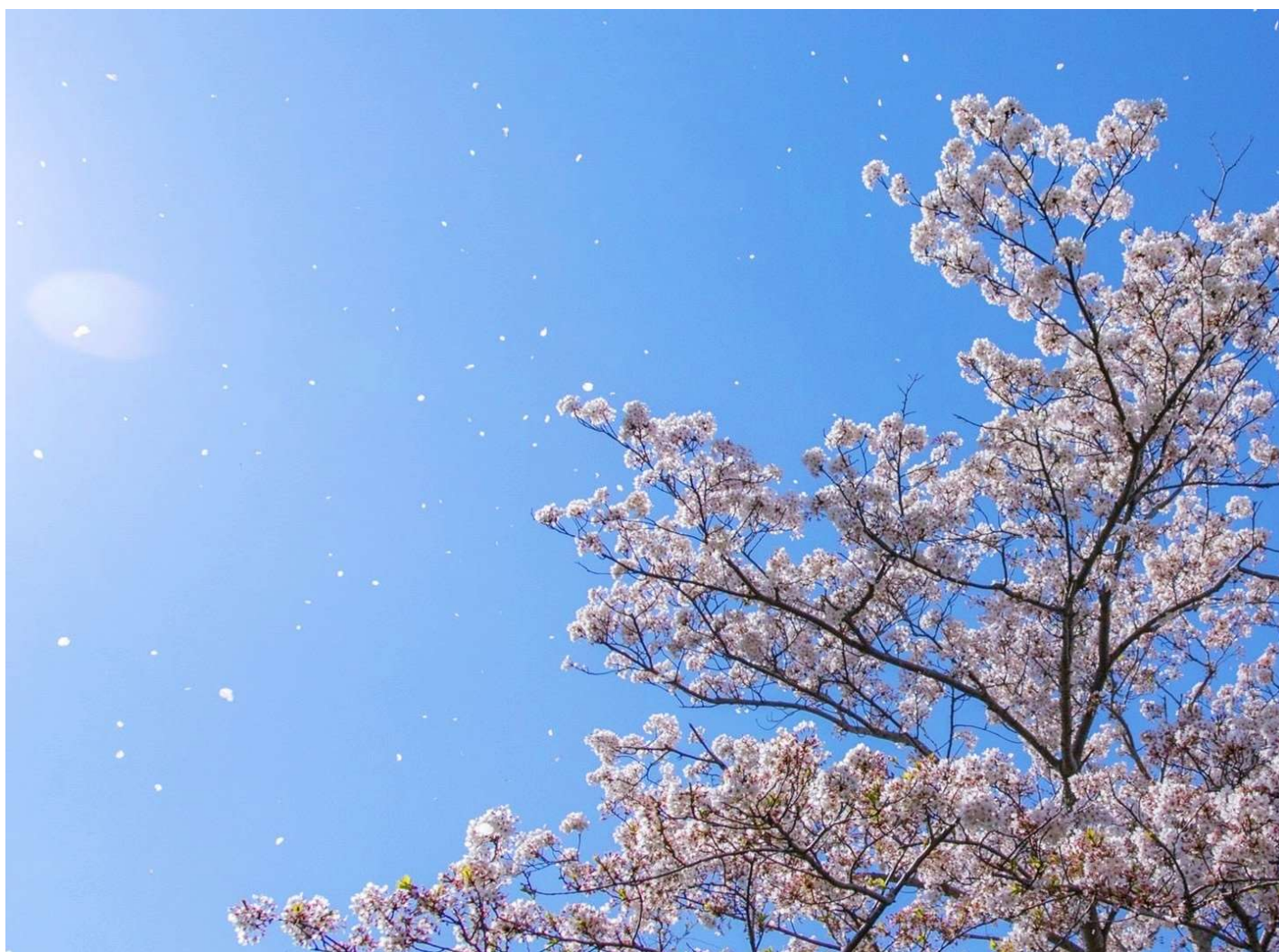




News Letter

けんなん



春爛漫の花吹雪

Contents

● 宮崎県認知症疾患医療センターとしての 一年間の歩み	2・3
● 宮崎県認知症疾患医療センター 5施設合同研修会（延岡市にて）	4・5
● 新入職者研修	6
● 花言葉（アルストロメリア）	7

ご自由に
お持ち帰り
ください



宮崎県認知症疾患医療センターとしての当院の歩み

「厚生労働省認知症施策総合戦略（新オレンジプラン）」に基づいて、当院が「宮崎県認知症疾患医療センター」に認定されて以来、本年10月末で8年の月日が経過いたします。①専門医療相談、②認知症の鑑別診断・初期対応、③身体合併症状・周辺症状への対応、④地域との連携推進、⑤認知症研修会・情報発信等、さまざまな活動を推進してまいりました。昨年の実績報告をさせていただきます。

県南病院 副院長 認知症疾患医療センター長 藤元 ますみ



R6 2.9

第32回 認知症サポート医・かかりつけ医スキルアップ研修会

主催：宮崎県医師会 会場：医師会館及びWeb形式

認知症患者の介護では、中核症状以上に周辺症状（BPSD）が問題となることが多くあります。周辺症状とは、認知機能の障害に加えてさまざまな要因によって現れる精神症状や行動障害を指します。



当院から蛸原功介先生が「認知症周辺症状へのアプローチ」という演題で講演を行いました。特に「せん妄」と「抑うつ」に焦点を当て、①認知症とせん妄・うつ病との違い、②認知症の原因疾患ごとの周辺症状の特徴、③せん妄の予防法と治療、④うつ病の対応と治療について解説しました。

また、谷口祥順作業療法士が「当院における認知症リハビリテーション（非薬物療法）」について講演しました。介護拒否や孤立傾向のある患者様の症例を紹介し、作業療法を通じて日常生活活動や認知機能の低下を防ぎ、社会的孤立を改善する取り組みを報告しました。

R6 2.10

令和5年度 若年性認知症講演会 ～若年性認知症の初期を考える～

主催：認知症の人と家族の会 宮崎県支部
会場：宮崎市民プラザ

若年性認知症は18歳～65歳未満で発症する認知症を指します。働き盛りの世代に影響を及ぼし、経済的負担や社会的役割の変化により、患者様自身や家族に大きな負担がかかります。

藤元ますみ先生が「若年性認知症 ～若年性アルツハイマー病を中心に～」の演題で講演し、①診断の流れ、②早期発見のポイント、③若年性アルツハイマー型認知症とうつ病の鑑別、④うつ病からアルツハイマー病への移行、⑤治療方法、⑥予防策、⑦患者様やご家族を支える仕組みについて分かりやすく解説しました。

R6 8.2

令和6年度 認知症多職種協働研修会

主催：社会福祉法人 串間市社会福祉協議会
会場：串間市総合保健福祉センター

串間市では、地域における認知症の理解とケアの向上を目指し、本研修会を継続的に開催しています。当院から薬師川陽一先生が講演を行いました。講演後、32名の参加者が4つのグループにて「若年性認知症の方に必要な支援」「専門職としてできること」について発表し、薬師川先生が総括しました。専門職が連携し、地域で認知症患者を支えていくための貴重な機会となりました。



主催：宮崎県医師会 会場：医師会館およびWeb形式

蛸原功介先生が「認知症の急性増悪として紹介されたうつ病合併の軽度認知障害の1例」の演題で講演しました。抑うつ症状は徘徊や幻覚・妄想などのBPSDと比較して注目されにくいものの、認知症・うつ病・せん妄が併発することがあり、鑑別が難しいことが課題です。特に高齢のうつ病患者様では、

身体症状の訴えが多く見られ、繰り返し同じことを訴えるケースではうつ病の可能性を考慮する必要があります。抑うつ気分は「喜びの欠如」や「身体的不調感」として現れることが多く、診断には慎重な対応が求められます。抗うつ薬の適応については精神科医への相談が重要であり、うつへの対応としては患者様を不安にさせず、非難・叱責・激励・無理強い等を避けることが大切であると講演しました。

主催：宮崎県認知症疾患医療センター
後援：宮崎市 JA AZM 大ホール

当院の作業療法士 上原宗志朗が「当院における認知症患者様のADL低下に対する工夫（排泄動作に着目して）」の演題で講演しました。

ADL（Activities of Daily Living）とは日常生活動作を指し、特に排泄動作は、①一日の中で最も頻繁に行われるADL動



作、②病棟スタッフの介護負担が大きい、③立位や更衣動作等を含み、他の動作能力向上にもつながるため重要視されます。

排泄動作の自立を目指し、立位保持時間30秒を目標に設定し、下肢筋力訓練や歩行訓練等を実施しました。リハビリ介入を継続することで、アルツハイマー型認知症患者（82歳・90歳）の身体能力や意欲向上が認められました。病棟スタッフとの連携やご家族の意向を考慮しながら、的確なADL支援を行うことの重要性が再確認されました。

主催：社会福祉法人 串間市社会福祉協議会
会場：笠祇小学校体育館

串間市からの依頼を受け、藤元ますみ先生とリハビリテーション科が協力し、地域住民や行政機関関係者を含む55名が参加しました。藤元ますみ先生は「認知症を正しく理解し、みんなで支え合う～地域まるごと認知症ケア～」の演題で講演し、①認知症の基礎知識、②年相応のもの忘れと認知症の違い、③治療の三本柱（薬物療法・非薬物療法・ケア）④接し方のポイントについて解説しました。

リハビリテーション科からは「家庭や地域でできる認知症予防体操とレクリエーション」の演題で、理学療法士（岡部 緋彩）と作業療法士（上原 宗志朗、岩谷 陸、東 威武樹）が担当しました。笑顔が絶えない 楽しい交流の場を提供することができました。



活動実績（クリニカル・インジケーター）

集計期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

1) 専門医療相談件数：649件

電話（512）、面談（91）、訪問（38）、オンライン（8）

2) 初診鑑別診断件数：178件

アルツハイマー型認知症	(100)	統合失調症・統合失調症型障害及び妄想性障害	(18)
血管性認知症	(17)	気分（感情）障害	(10)
軽度認知障害（MCI）	(9)	レビー小体型認知症	(5)
てんかん	(1)	神経発達障害（知的発達障害を含む）	(1)
正常圧水頭症	(1)	その他 精神疾患	(16)

今後も地域と連携し、認知症への理解と支援を深める活動を続けてまいります

令和7年1月9日

宮崎県認知症疾患医療センター 合同研修会

主催：認知症疾患医療センター

協和病院 野崎病院 大悟病院

吉田病院 県南病院

場所：延岡市 野口遵記念館

テーマ：地域で紡(つむ)ぐ幸齢(こうれい)社会 もっと知ろうもっと語ろう認知症



宮崎県認知症疾患医療センターは、認知症の専門医療機関として、早期診断・治療や相談支援を行い、地域の医療・介護機関と連携しながら認知症ケアの充実を図る役割を担っています。合同研修会は、県内の認知症疾患医療センターが一堂に会し、各施設の取り組みを共有しながら、認知症ケアの質の向上を目指す研修の場です。関係者が学びを深め、地域全体で支える認知症ケアの在り方について意見交換を行います。本研修会で当院が発表した内容をご紹介します。

演題

串間市における認知症施策と認知症疾患医療センターの関わり ～ 安心して暮らせる地域を目指して ～

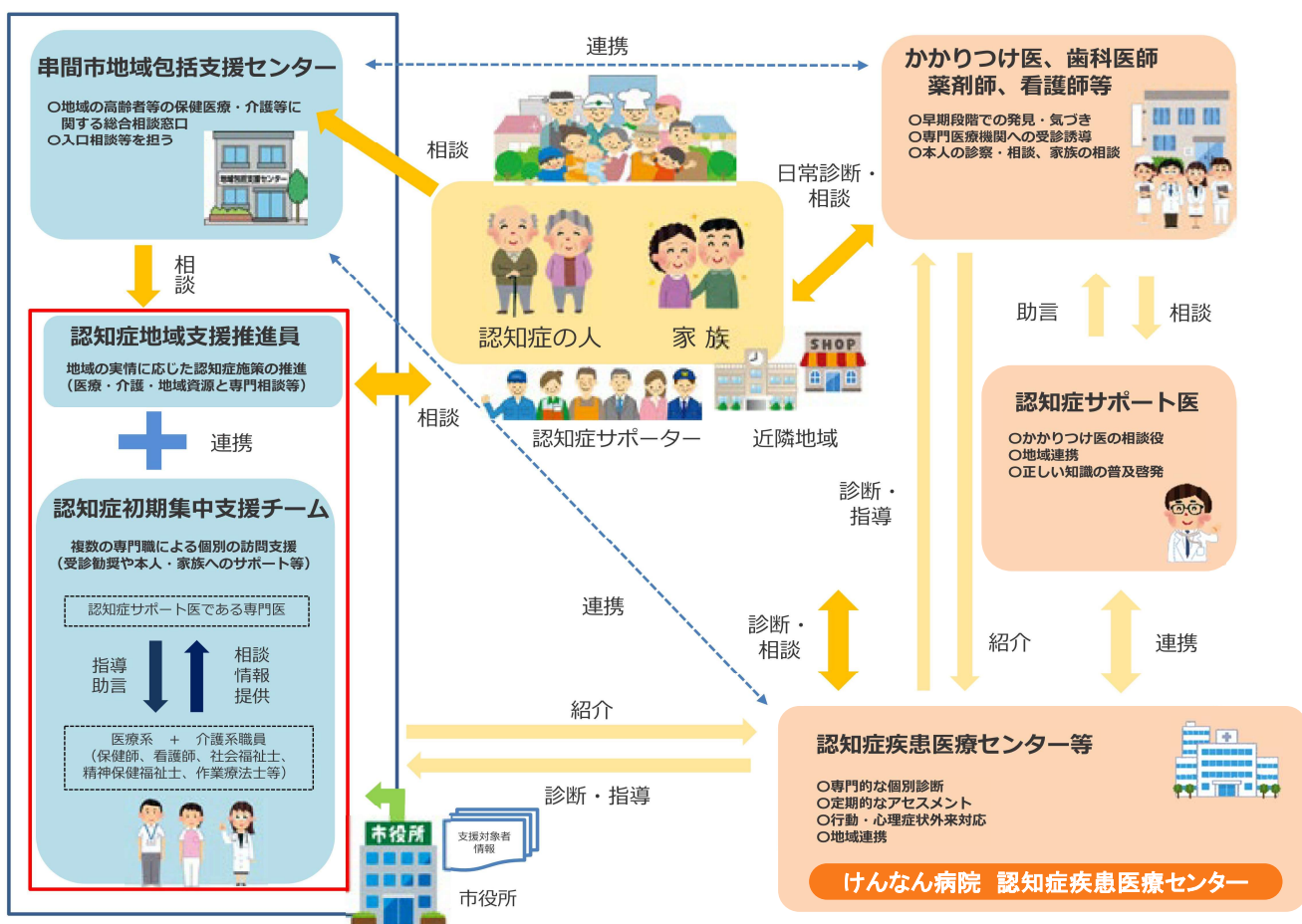
串間市における高齢者の現況

串間市では、令和6年を境に総人口の減少が進むと予測されています。65歳以上の高齢者も減少するものの、高齢化率は令和12年に46.7%でピークを迎え、その後は横ばいになると見込まれています。また、令和22年（2040年）には、65歳以上の人のうち約7人に1人（約15%）が認知症を発症すると推計されており、市民全体で見ると約14人に1人が認知症になる計算になります。当院では、串間市から「認知症初期集中支援事業」の委託を受け、認知症の早期発見・支援に取り組んでいます。

県南病院
認知症初期集中支援チーム
看護師 深江 ちかえ



認知症疾患医療センターの位置づけ



認知症初期集中支援チームの活動

「認知症初期集中支援事業」の委託を受け、
県南病院が運営します。

個別支援

認知症の方やご家族等に早期に関わり、早期診断・早期治療に向け、受診勧奨や家族等へのアドバイス等を行います。

- ・必要に応じ、各種サービスの利用調整
- ・月1回の会議や、認知症地域支援推進員と情報共有会議にて連携推進

チームのメンバーは認知症の鑑別診断をする専門医1名と、医療と介護の専門職（保健師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理士等）2名以上です。会議には行政職員、包括支援センター職員、社会福祉協議会職員等も参加します。

●具体的な支援例

認知症が疑われる方や、診断後に適切な支援を受けていない方に対し、以下のような支援を行っています。

①専門医受診の支援

- ・医療サービスの利用や薬の服用開始のサポート
- ・デイケアの利用検討 など

②介護サービスの支援

- ・要介護認定の申請サポート
- ・認定後の適切なサービス利用の検討

③ご本人の生きがい(就労)と経済支援

④ご家族や地域住民の関わり方への支援

- ・ご家族との情報共有や相談対応
- ・地域住民への周知（勉強会の開催、見守り体制の構築）
- ・認知症地域支援推進員との連携

●『つながる会』開催

認知症のご本人とご家族等が自らの体験や思っていることを自由に語り合う場です。お互いに「集まって楽しい」思いの場で、ご本人だからこそその気づきや意見を基に、ご本人と地域の様々な方が、一緒に「より良い暮らしや暮らしやすいまちづくり」につなげていくための集まりです。

日 時：毎月第三水曜日 14：00～16：00

会 場：県南病院 温室内 参加費：無料

対 象：串間市在住の方 送迎可能（事前連絡をお願いします）

支援者：当院専門医、公認心理師 など、

認知症初期集中支援チーム員、認知症地域支援推進員、

包括支援センター職員、介護保険係職員

お問い合わせ：県南病院 相談員 前田 TEL 0987-72-0224

ご家族にとっての効果

- ・ご本人が人の輪に入って適応し表情が豊かになり、新たな一面を知ることによって安心できる。
- ・デイケア等を利用しやすくなり、ご家族自身の時間を持つ機会が増える。
- ・ご家族同士で日頃の悩みやストレスを共有し、気持ちを分かち合える。

認知症地域支援推進員の活動

「認知症地域ケア・向上事業」として、
串間市が直接メンバーを配置します。

地域支援

地域で暮らす認知症の人が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるための地域の支援者や支援機関の間の連携を支援します。

- ・認知症への理解を深められるための普及・啓発
- ・認知症の方とご家族への支援
- ・若年性認知症の方への支援
- ・医療介護を含む多種多様な連携
- ・ネットワークによる緻密な環境づくり

認知症のご本人とご家族への支援

●『認知症の人と暮らす家族の集い』開催

ご本人・ご家族・ボランティア等どなたでも参加でき、講義や個別の相談に応じています。

日 時：毎月第四木曜日 14：00～15：30

会 場：道の駅串間 交流館イベント室

支援者：認知症地域支援推進員

認知症初期集中支援チーム員

包括支援センター職員

お問い合わせ：串間市社会福祉協議会 TEL 0987-72-6943

認知症地域支援体制づくりの取り組み

●多職種協働研修会

年に1回、市内の医療系専門職(医師・看護師・理学療法士 等)、福祉系専門職(精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員 等)が参加します。認知症に関する知識を深め、情報共有や連携を密にするための研修です。毎回、当院の認知症疾患医療センターの専門医に講師のご依頼を頂いています。

●認知症地域フォーラム

串間市内の各地域で順次、開催しています。地域住民及び関係機関の職員が参加し、認知症について正しい理解や予防を学び、地域住民の皆さんで支え合う意識作りを推進しています。

串間市地域包括支援センター

TEL 0987-72-0023

串間市認知症初期集中支援チーム

医療法人十善会 けんなん病院

TEL 0987-72-0224 (総合受付)

宮崎県認知症疾患医療センター

医療法人十善会 けんなん病院

TEL 0987-72-3565 (直通)

ご相談
ください



今年度も、17名の新しい職員が
県南病院の一員となりました

新入職者研修



新入職者研修では、医療従事者として重要な 感染防止対策 や 医療安全管理 を中心に、当院の概要、個人情報保護、就業規則、臨床倫理の方針、接遇、ビジネスマナーなど、多彩な内容を学んでいただきました。

研修初日には、院長先生より歓迎と激励の言葉をいただき、人事課長から辞令が交付されました。

感染防止対策委員会からは、ガウン・マスク・手袋・キャップなどの 個人防護具の正しい使用方法 を学びました。感染を防ぐためには、防護具の正確な着脱と丁寧な手洗いが欠かせません。

手洗いの実習では、蛍光ローションを手に塗ってから洗浄し、特殊ライトで照らして洗い残しやすい箇所を確認するなど、実践的な内容でした。

医療安全委員会からは、今後も事故を限りなくゼロに近づけるために、潜在的な危険に気づき、予防する姿勢の大切さを学びました。

また、ビジネスマナー（所作・敬語・電話対応・接遇）を学ぶとともに、グループワークを通してお互いの親睦を深めました。チームビルディングやコミュニケーション、半年後の自身のビジョンを描くことで、協調性や柔軟な思考力を育む機会となりました。

それぞれの部署に、新しい風が吹き込まれるのが楽しみです！新たな仲間たちのこれからの活躍を期待しています。



正パート職員
募集中

病院見学
随時受付中

看護師・准看護師

介護福祉士

管理栄養士

要資格

看護補助者

調理員

住宅型有料老人ホーム
櫻宴(オーエン)職員

資格不問です！

私たちと一緒に働きませんか？

- パートは週1日3時間からOK。日勤のみ夜勤のみもOKです。
- 子育て中の方でも大歓迎です。60、70代の職員も活躍中です。
- 未経験やブランクがあっても、先輩の職員が丁寧に指導いたします。
- 保育所費の補助制度があります。 ● 職員寮を完備しています。

TEL 0987-72-0224

電話音声自動案内5番を押す

人事課：高橋・西坂

オーエン

花言葉

持続
未来への憧れ

アルストロメリア

学名 *Alstromeria*



アルストロメリアは、多年草の球根植物で、百合や水仙に似た花を咲かせます。1本の茎に複数の花をつけるためボリューム感があり、赤・ピンク・白・オレンジ・黄色など、多彩な花色が魅力です。華やかな印象から、花束のギフトとしても人気があります。

花言葉の「持続」は、花持ちの良さに由来し、「未来への憧れ」は、真っ直ぐに伸びる茎が希望を抱いて空を見上げているように見えることにちなんでいます。

学名は、スウェーデンの植物学者カール・フォン・リンネが南米旅行中に採取し、親友のヨナス・アルステーマ男爵の名前にちなんで命名されました。

ユリズイセン科 ユリズイセン属 開花時期 4～7月
原産地：南アメリカ

